

令和6年度 青森市平和・防災学習事業 報告書



岩手県釜石市の中学生と「青森県防災教育センター」にて

青 森 市

目 次

1	令和6年度青森市平和・防災学習事業 実施概要	1
(1)	趣 旨	1
(2)	派遣（相互交流）先	1
(3)	派遣者	1
(4)	スケジュール	2
①	任命式・事前交流	2
②	相互交流／釜石市中学生の受入	2
③	相互交流／青森市中学生の派遣	2
④	体験報告	2
2	活動の記録	3
(1)	任命式・事前研修会	3
○	任命式に参加して	横内中学校 工藤 功太郎 ... 3
○	事前研修会に参加して	筒井中学校 伊藤 萌々花 ... 3
(2)	相互交流／釜石市中学生の受入	4
○	青森県防災教育センターでの体験学習	甲田中学校 木戸 愛理 ... 5
○	施設を見学して	甲田中学校 甲 地 諒 ... 5
○	青森市平和祈念式典に参加して	横内中学校 小野 珠莉亜 ... 5
(3)	相互交流／青森市中学生の派遣	6
○	釜石市副市長を表敬訪問して	筒井中学校 仲原 卓土 ... 8
○	いのちをつなぐ未来館を見学して	荒川中学校 白坂 奈珠 ... 9
○	釜石鶴住居復興スタジアムを見学して	荒川中学校 間山 晃喜 ... 9
○	鉄の歴史館を見学して	新城中学校 成田 慶士朗 ... 9
○	釜石市戦没者追悼・平和祈念式に参加して	横内中学校 小野 珠莉亜 .. 10
○	戦争体験談を聞いて	荒川中学校 白坂 奈珠 .. 10
○	釜石市中中学生との意見交換会	新城中学校 四戸 華撫 ...11
○	釜石市郷土資料館を見学して	新城中学校 成田 慶士朗 ...11
(4)	体験報告	12
○	平和と防災を考え、受け継ぐ集いで体験発表	12
○	平和と防災を考え、受け継ぐ集いに参加した小学生の感想	24
○	平和と防災を考え、受け継ぐ集いに参加した中学生の感想	25
3	活動を振り返って	26
○	青森市中中学生（派遣者10名）の感想	26
○	釜石市中中学生（派遣者10名）の感想	32

1 令和6年度青森市平和・防災学習事業 実施概要

(1) 趣 旨

先の大戦により戦争被害を受け、また、東日本大震災により甚大な被害を受けた岩手県釜石市へ本市の中学生を派遣し、平和の尊さと地震等の災害に対する防災対策の大切さへの理解を深めます。併せて、その体験を小学生や中学生に伝えるとともに、広く市民に発信することで、市民の平和意識、防災意識の醸成を図ることを目的に実施します。

今年度は、派遣先の中学生を本市に受け入れる相互交流を実施しました。

(2) 派遣（相互交流）先

岩手県釜石市

(3) 派遣者

＜青森市＞

筒井中学校	1年 仲 原 卓 土 1年 い とう も も か 1年 伊 藤 萌々花
横内中学校	1年 く どう こうたろう 1年 工 藤 功太郎 1年 お の じゅりあ 1年 小 野 珠莉亜
荒川中学校	1年 ま やま こう き 1年 間 山 晃 喜 1年 しら さか な み 1年 白 坂 奈 珠
新城中学校	1年 なり た けいしろう 1年 成 田 慶士朗 1年 し のへ か なで 1年 四 戸 華 撫
甲田中学校	1年 かつ ち りょう 1年 甲 地 諒 1年 き ど え り 1年 木 戸 愛 理

※市内全域での平和意識、防災意識の醸成のため、派遣校は「持ち回り」

※派遣校5校のうち1校の教員1名及び青森市総務部総務課職員1名が引率

＜釜石市＞

釜石中学校	1年 み うら あお と 1年 三 浦 碧 人 1年 かわ かみ に ちか 1年 川 上 仁 愛
甲子中学校	1年 よね ざわ ゆう しん 1年 米 澤 悠 真 1年 やま ね く う 1年 山 根 来 桃
釜石東中学校	1年 さ さ き かず まさ 1年 佐々木 一 真 1年 おがさわら み く 1年 小笠原 実 紅 1年 さ さ き さやか 1年 佐々木 さやか
唐丹中学校	1年 すず き いち ご 1年 鈴 木 一 護
大平中学校	1年 うえ た せ な 1年 植 田 瀬 那 1年 いま の り あ 1年 今 野 凜 彩

※釜石市教育委員会事務局学校教育課職員2名が引率

(4) スケジュール

①任命式・事前交流

6月20日(木) 任命式、事前研修会【青森市役所本庁舎】

②相互交流／釜石市中学生の受入

7月26日(金) 表敬訪問【青森市役所本庁舎】

防災の体験型施設での学習【青森県防災教育センター】

7月27日(土) 青森市内の平和関連施設の見学【青森空襲資料常設展示室 外8か所】

青森市内の防災関連施設の見学【青森市総合体育館】

釜石市中学生との意見交換【青森市総合体育館】

7月28日(日) 青森市平和祈念式典への参加【アウガ AV 多機能ホール】

③相互交流／青森市中学生の派遣

8月8日(木) 出発式【新青森駅】

表敬訪問【釜石市役所第1庁舎】

いのちをつなぐ未来館の見学

釜石^{うのすまい}鶴住居復興スタジアムの見学

8月9日(金) 鉄の歴史館の見学

釜石市戦没者追悼・平和祈念式への参加【釜石市民ホール】

戦争体験談の朗読【釜石市役所第4庁舎】

釜石市中学生との意見交換【釜石市役所第4庁舎】

釜石市郷土資料館の見学

8月10日(土) 解散式【新青森駅】

④体験報告

10月3日(木) 平和と防災を考え、受け継ぐ集いでの体験発表及び修了証書授与

【新城中学校】

10月12日(土)・13日(日) 文化祭での体験発表

【筒井中学校、横内中学校、荒川中学校、甲田中学校】

2 活動の記録

(1) 任命式・事前研修会

◆任命式（6月20日（木） 青森市役所本庁舎）



○西市長から青森市平和・防災学習事業の派遣者に任命され、任命状をいただきました。西市長との懇談の中で、一人ひとりが本事業にける抱負を述べました。

○任命式に参加して

横内中学校 工藤 功太郎

6月20日に行われた任命式で、西秀記市長から青森市平和・防災学習事業の青森市を代表する派遣者として直接任命状をいただきました。

そして、「青森市と釜石市の戦争や災害などの違いを学んでください」と話してくださいました。任命式が終わり、懇談のときに、私たちは、今回の釜石市派遣に対しての決意や意気込みを一人ずつ発表し、戦争がどれだけ悲惨なのか、また、人災（戦争）と自然災害（台風、津波、地震など）の相違点や共通点をしっかりと学んでいく決意を示しました。

○事前研修会に参加して

筒井中学校 伊藤 萌々花

青森県では内陸地震や日本海溝地震による被害の可能性が高いことがわかりました。また、青森空襲での甚大な被害について学び、戦争の悲惨さや平和の尊さを感じました。防災についても大切さを改めて認識し、災害に備える必要性を実感しました。研修会を通じて、青森市の平和への取組や戦争の歴史、防災対策について学び、これからも意識を高めていきたいと考えています。戦争や災害の経験を後世に伝え、地域社会全体で防災意識を持つことの重要性を感じました。市役所の皆さんとの交流を通じて、平和と防災に対する責任感が強まり、今後も学び続けて発信していく決意を新たにしました。



(2) 相互交流／釜石市中学生の受入

◆防災の体験型施設での学習（7月26日（金） 青森県防災教育センター）



○釜石市の中学生と青森県内の災害の歴史や、今後想定される災害について学習しました。また、実際に消火器の使い方や煙からの避難、震度7の地震を体験しました。

◆青森市内の平和・防災関連施設の見学（7月27日（土） 青森空襲資料常設展示室 外9か所）



○釜石市の中学生と一緒に、青森市民図書館歴史資料室の工藤室長に講師となっていていただき、市内の平和関連施設を見学しました。また、青森市地域スポーツ課の山下さんと小泉さんが防災施設としての機能を備えている青森市総合体育館について、建物内外を案内しながら説明してくれました。

〔青森市内の平和・防災関連施設の見学ルート〕

- ①青森空襲資料常設展示室～②初代青森平和観音像～③カトリック本町教会～④青森製氷株式会社～
- ⑤旧青森銀行本店（現 青森県立郷土館）～⑥空襲・戦災都市 青森の碑～⑦青函連絡船戦災の碑（八甲田丸地区）～
- ⑧八甲田丸～⑨ねぶたの家 ワ・ラッセ～⑩青森市総合体育館

○最後に、釜石市の中学生と両市の平和・防災の取組について意見交換を行いました。

◆青森市平和祈念式典への参加（7月28日（日） アウガ AV 多機能ホール）



○青森市平和祈念式典に釜石市中学生とともに参加し、折り鶴を献上しました。南中学校合唱部と沖館中学校合唱部の生徒による合同での追悼合唱の歌声は深く心に響きました。

○青森県防災教育センターでの体験学習

南海トラフ地震や千島海溝地震がもたらす甚大な被害について深く理解しました。特に、地震体験や煙体験は、災害の恐ろしさを実感する良い機会となりました。津波の高さや地震の揺れの強さなど、具体的な数字や体験を通して、日頃から防災意識を持つことの大切さを痛感しました。また、被災地の現状や防災の取組について学ぶことができ、自分にもできることを考えさせられました。

甲田中学校 木戸 愛理



○施設を見学して

青森空襲の悲惨さ、平和の尊さ、そして災害への備えの重要性を深く学びました。特に、青森空襲で多くの人が犠牲になったこと、そして平和な青森がどのようにして生まれたのかを知り、平和の大切さを改めて実感しました。八甲田丸や総合体育館の見学を通して、歴史や防災について学び、青森の街が持つ力強さを感じました。これらの経験は、私にとって大きな学びとなり、平和な社会を築くために、私たちにもできることがあると感じました。

甲田中学校 甲地 諒



○青森市平和祈念式典に参加して

終戦から約 80 年が経った今でも多くの方々が参加しており、平和に対して強い想いを抱く人々がこんなにもいるなんて、なんて素敵な市なのだろうと思いました。そして、そんな強い想いを抱くまでの残酷な過去があるということを再認識して、悲しくもなりました。黙祷や折り鶴献上は、戦争により理不尽に命を奪われた方々、理不尽に大切な存在を奪われたご遺族の方々、数え切れない多くの人々の無念を少しでも晴らせるように強く願い、二度と同じ悲劇が起きぬよう祈りながら行いました。ご遺族の方の一つ一つの言葉は痛々しく、聞いていて辛く苦しいものでした。ご遺族の方々はとても辛かったことでしょう。せめてでも、これからは延命長寿でおられる事を祈ります。最後の合唱では、あまりの美しい歌声に圧倒されて危うく歌詞を聞き逃すところでした。どちらの曲も素晴らしく、個人的には二曲目の「いのちの歌」が心に響きました。産まれて、育ててもらえて、笑えて、出会えて。どれも当たり前のようで、当たり前じゃない。こうして平和に生きていられることがどれだけ幸せなことか、改めて実感しました。

横内中学校 小野 珠莉亜



（３）相互交流／青森市中学生の派遣

◆出発式（８月８日（木） 新青森駅）



○新青森駅の一角で出発式を行いました。あらかじめ役割分担を決めて、司会や出発の挨拶は中学生が行いました。中学生同士が仲良くなり、結束を深めることは、この学習を進める上でも非常に重要です。たくさんの関係者や保護者の方々に見送られ、出発しました。

◆表敬訪問（８月８日（木） 釜石市役所第１庁舎）



○釜石市の平松副市長、高橋教育長が温かく迎えてくれました。釜石市の印象や青森市との違い、生徒の間で今流行していること等について意見を交わし、終始和やかな雰囲気でお話をすることができました。表敬後、青森市からは、新城中学校の生徒が作成した金魚ねぶたを贈呈しました。

◆いのちをつなぐ未来館の見学（８月８日（木））



○東日本大震災の被害を後世に伝えること、防災について学ぶことを目的に建てられた、いのちをつなぐ未来館を訪れました。施設スタッフの川崎さんから語られる、実際の体験を交えたお話に、皆、時間を忘れて聞き入っていました。防災のヒントをたくさん学ぶことができました。

◆釜石鵜住居復興スタジアムの見学（８月８日（木））



○元ラグビー選手だった職員の方が出迎えてくれ、現役ラグビー選手の職員から施設の説明を受けました。東日本大震災で被害を受けた場所に建設されたことや、ラグビーワールドカップが開催されたことを聞きました。

◆鉄の歴史館の見学（8月9日（金））



○釜石市が「鉄のまち」と呼ばれるようになった理由を知るため、鉄の歴史館を訪れました。近代製鉄の父と呼ばれる大島高任による日本初の洋式高炉開発の過程や、製鉄所が理由で、戦争の標的になってしまったこと等について、とても分かりやすく学ぶことができました。

◆釜石市戦没者追悼・平和祈念式への参加（8月9日（金） 釜石市民ホール）



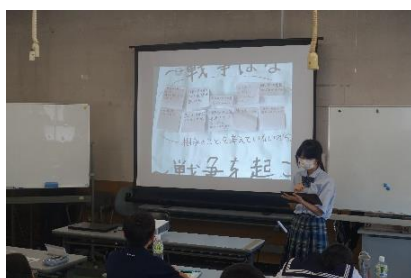
○釜石市戦没者追悼・平和祈念式に釜石市の中学生と参加しました。ボランティア団体「颯・2000」の浅沼和子さんが、釜石市が受けた艦砲射撃についての紙芝居を朗読し、「戦争は絶対にやってはならない。みなさんは平和を願う気持ちを持ち続けてください」と訴えました。また、釜石市の代表1名が市の平和都市宣言を読み上げ、全員で献花をしました。戦争から79年が経っていますが、決して心の傷が癒えていないと感じました。

◆読書サポーター「颯・2000」による戦争体験談の朗読（8月9日（金）釜石市役所第4庁舎）



○「颯・2000」の皆様から、艦砲射撃の被弾数や、それによる被害者数、戦争体験者の証言記録などを聴き、当時の出来事について学びを深めることができました。

◆釜石市中学生との意見交換（8月9日（金） 釜石市役所第4庁舎）



○両市の中学生が3つの班に分かれ、「なぜ戦争は起きるのか」、「戦争を起こさないようにどのようなことをすればよいか」という2つのテーマについて話し合い、各班の代表が意見を発表しました。

◆釜石市郷土資料館の見学（8月9日（金））



○研修最後の行程として、釜石市郷土資料館を訪問しました。艦砲射撃や東日本大震災に関する資料が展示されており、佐々木館長から艦砲射撃による被害状況などについて説明を受けました。

◆その日の振り返り・解散式（8月8日（木）～8月10日（土） 釜石市内・新青森駅）



○今回の学習で学んだことを青森市の小学生や中学生に伝えることが派遣者としての役割の一つです。毎晩、その日の振り返りを行い、10月3日の体験発表に向けて、それぞれがクロームブックを持ち寄り、スライドを共有しながら話し合いました。
○解散式では、学んだことに加え、メンバーへの感謝の言葉が述べられました。この学習を通じて、お互いの絆がとても深まりました。この後、心一つに体験発表に向けて準備作業を進めます。

○釜石市副市長を表敬訪問して

筒井中学校 仲原 卓土

平松副市長より庁舎の震災被害について説明していただき、「今私たちがいる第1庁舎は昭和29年の建設から70年が経過しており、また第2庁舎から第5庁舎においても建設からおおよそ40年以上が経過しております。建物の老朽化と津波対策のための新庁舎が令和7年12月に完成する予定で、翌年度の利用開始を目指しています。」と教えてくれました。

また、高橋教育長より、「釜石市を少しでも楽しみ、釜石市に興味を持って青森に戻ってくれるとうれしいです。また、明日午後の限られた時間ではありますが、釜石市の生徒とたくさん交流を図ってください。」とお言葉をいただきました。

その後、副市長のお母様が青森市出身とのことで、副市長も青森市に詳しく、食や祭りに関する内容で、笑いなども交えて和やかに交流をすることができました。

交流後には、新城中学校の生徒が作成した金魚ねぶたを副市長と教育長へお渡しし、喜んでいただきました。

〇いのちをつなぐ未来館を見学して

地震や津波の備えとそのメカニズムについて学ぶ中で、特に東日本大震災時の釜石市の被害が印象に残りました。津波によって多くの建物が浸水し、66.3 パーセントの家が被害を受けたことや、1 キロメートル離れた地点でも 11 メートルの浸水があったことに驚き、津波の恐ろしさを痛感しました。また、地形が津波の大きさに影響を及ぼすことを理解し、自身の家の周辺の地形を調べて適切な避難方法を考える必要性を感じました。特に重要な教訓として、避難場所と避難所の違いをしっかりと認識する必要があると感じました。釜石市では多くの人々が防災センターを誤解し、犠牲になる例があったため、この情報を周囲に伝えようと決意しました。また、中学生たちの勇気ある行動が 99.8 パーセントの小・中学生の命を救った事実にも感動し、自分自身も防災に対する意識を高めることを心掛けようと強く思いました。

荒川中学校 白坂 奈珠



〇釜石鵜住居復興スタジアムを見学して

釜石市はラグビーでまちづくりを進めていることを知りました。釜石鵜住居復興スタジアムは、復興に向けたラグビーワールドカップのために作られた施設で、元々は小・中学校があった場所でした。津波の影響を考えた設計も多くありました。特に印象に残ったのは、水門があり、津波が来た際には閉じられるということです。最大の津波の高さが 20 メートルであることから、スタジアム自体も高く位置しています。また、飲水や消火用の水を貯める貯水槽が完備され、避難道も確保されています。スポーツと防災、自然が融合したスタジアムに感銘を受けました。

荒川中学校 間山 晃喜



地元の木を多く使用し、建物内は良い匂いがしたことが印象に残っています。グラウンドは耐久性、衝撃吸収性、メンテナンス性に優れた天然芝であり、青森県六ヶ所村産の砂が使用されていることや、釜石市スポーツ推進課に勤務しており、釜石シーウェイブス RFC の現役選手でもある青柳 魁選手が八戸学院大学出身であることを知り、さらに興味と感動をもって、楽しみながら学ぶことができました。

〇鉄の歴史館を見学して

鉄の歴史館では防災・平和の他にもたくさんのことを学ぶことができました。釜石市についてからずっと気になっていた煙の出ている建物の正体を知ることができ、釜石市は鉄のまちで鉄を作るのに便利な鉄鉱石が採れる鉄鉱山があったそうで、たくさんの鉄を作っていたとお話を聞きました。鉄鉱山はとても珍しい山だそうです。だからこそ戦争で必要な武器には必要不可欠だった鉄に目を付けられて、戦争の艦砲射撃を受けたそうです。しかも、他の製鉄所は艦砲射撃を 1 回受けましたが、釜石市は 2 回艦砲射撃を受けたそうで、それほど鉄がたくさん作られていた場所だとお話を聞き

新城中学校 成田 慶士朗



ました。そして釜石市は焦土と化し壊滅的だったといえます。しかし、製鉄所が復興時の中心的な役割を果たし、第二次世界大戦が終わって（昭和 20 年 8 月 15 日）から約 3 年後の昭和 23 年 5 月 15 日に復興を果たしたと学びました。壊滅的な状況でも製鉄所は中心的な役割を果たしたというところにとっても心が惹かれました。鉄の歴史も同時に学べて一石二鳥でとても勉強になりました。

○釜石市戦没者追悼・平和祈念式に参加して

横内中学校 小野 珠莉亜

戦没者追悼・平和祈念式では、お花の献上とはまた別に、献唱の自由参加、その場全員での平和宣言など、私たち参加者も直接関われるものが多くありました。平和を願う心が強く込められた式だと感動しました。紙芝居の読み聞かせは、朗読してくださった方の読み方が素晴らしかったのもあり、その実際の光景がほんのりと浮かびました。想像しただけでも壮大な絶望感と恐怖に襲われて、悪夢を見たような現象が起こりました。



献唱では、どれも初めて聴く歌で、皆さんの歌を聴くことしかできませんでした。歌の歌詞の意味を考えることに専念していました。私が唯一考察できたのは、最後の『青い空は』という曲でした。「青い空は青いままで子どもたちに伝えたい」という歌詞がありますが、これは恐らく、青い空というのは戦争が起きていない状態を表しており（戦争時は赤色なので）、もう戦争が来なくなった平和な場所で子どもたちに色々と教えたい。つまり戦争がもう二度と来ないでほしいという願いが込められているのではないかと思います。今回の戦没者追悼・平和祈念式では、多くのことを考えさせられました。私は今まで 3 月 11 日と 8 月 15 日に黙祷をしてきたのですが、今度からは 8 月 9 日にも黙祷を行いたいと思います。

○戦争体験談を聞いて

荒川中学校 白坂 奈珠

艦砲射撃や機銃掃射に関する説明が分かりやすく、その内容の重さに辛い気持ちになりました。特に 16 インチ砲の大きさに驚き、戦争の恐ろしさを再認識しました。DVD や紙芝居を通じて得た多くの情報は、犠牲者の数の巨大さに衝撃を与え、戦争の残酷さを感じさせるものでありました。平和な生活がどれほど大切かを訴える子供向けの作品にも深い意味がありました。実際に艦砲射撃を受けた人々の話はショッキングで、想像するだけでも恐怖感があり、言葉では表現しきれないほどの衝撃を受けました。「私たちはもう死ぬんだ」、「死体がたくさん転がっていた」「長靴が溶けて、長靴を脱ごうとしたら足の皮がむけて…しかし『痛い』なんて言ってもらえない」という「希望」の「希」の字もない話を聞きましたが驚きすぎて理解が追いつかなかったです。「痛い」といって病院に行ける幸せ、生まれて良かったと思える幸せを知りました。



○釜石市中学生との意見交換会

新城中学校 四戸 華撫

釜石市中学生と青森市中学生とで3つの班を作り、「どうして戦争が起きるのか」、「戦争を起こさないためには」という2つのテーマについて考察しました。お互いに意見を出し合い、付箋に意見を記載し、模造紙に張り付ける作業を続けた後に、各班の代表が発表しました。戦争が起きる理由や、起こさないためにはどうすればいいかという答えは、戦争をしている各国も承知の上で戦争を起こしていると思います。私たちが考え、たどり着いた答えが正しいかは分かりませんが、戦時中の国に伝える手段もありますが、私たちが考えた時間や答えが何らかの形で活かせるといいなと思いました。

○釜石市郷土資料館を見学して

新城中学校 成田 慶士朗

館内で10分程度の艦砲射撃の映像を視聴した後、釜石市文化振興課担当職員から戦争の被害状況等について説明を受けました。

また、当時の人々の暮らしぶりを伝える写真や道具などが展示され、当時の釜石商業学校の生徒たちが銃剣訓練を行っていた写真や、「慰問文の書き方」という本が展示されており、当時の人たちが前線にいる兵士に向けて慰問の手紙を送っていたことを知ることができました。

そのほか、戦時中の生活や艦砲射撃があった当時の状況を記した手記も展示されており、集中して読むことができました。

(4) 体験報告

◆平和と防災を考え、受け継ぐ集い（10月3日（木） 新城中学校）



○新城中学校全校生徒、新城中学校区学校運営協議会委員等、市内中学校の代表中学生、そしてオンラインで新城小学校6年生、新城中央小学校6年生が参加し、たくさんの方々が見守る中、チーム一丸となって、学習したことを自分たちの言葉で熱心に伝えました。発表後、西市長から修了証書をいただきました。

○平和と防災を考え、受け継ぐ集いでの体験発表

【横内中学校 工藤功太郎】

これから、平和・防災学習の報告を始めます。10人で協力して発表しますので、最後までお聞きます。

この事業の目的は、「平和の尊さと防災対策の大切さに対する理解を深める」また、「市民の平和意識、防災意識の醸成を図る」ことです。

皆さんに考えてほしいことがあります。「平和」とはなんですか。争いや暴力がないこと、毎日食べるものや住む場所に困らないことでしょうか。今あなたが暮らす場所は、世界は、平和でしょうか。私たちは、何度もこの問いについて考えました。皆さんも平和とは何かを考えながら、聞いてください。

研修会では、青森市で過去に起きた自然災害や、これから起こりうる自然災害について学びました。日本海溝地震と入内断層地震は、青森市でも震度6以上を観測する発生確率が高くなっています。

災害が起きた時に大切な3つの考え方があります。それは、自分の身を自分で守る「自助」、地域や近隣の人々が互いに協力し合う「共助」、国・県・市などの自治体、消防機関による救助等が「公助」です。それぞれの役割を発揮することで、被害を最小限にできます。

令和6年度 青森市平和・防災学習報告

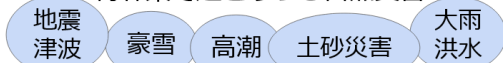


青森市平和防災事業の目的

- ① 先の大戦により被害を受け、また、東日本大震災により甚大な被害を受けた釜石市へ本市の中学生を派遣し、平和の尊さと地震等の災害に対する防災対策の大切さに対する理解を深める。
- ② その体験を小学生や中学生に伝えとともに、広く市民に発信することで、市民の平和意識、防災意識の醸成を図る。

任命式・事前研修会

青森県で起こりうる自然災害



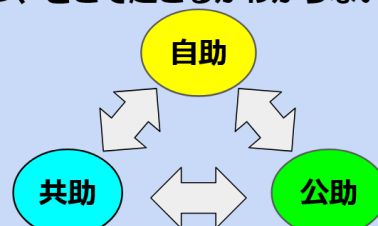
日本海溝地震

岩手県から北海道にかけて発生。300年～400年周期。前回から400年程度経過。

入内断層地震

青森市入内から青森湾にかけての活断層。発生確率「やや高いグループ」

いつ、どこで起こるかわからない災害



防災教育センター

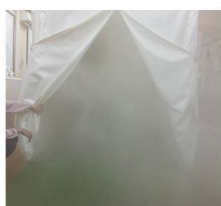
日本海溝地震が冬の深夜に発生した場合の青森県の被害想定

推定死者数	約 19 万人
低体温症で何らかの 手当が必要になる人	約 4 万人
全壊棟数	約 22 万棟以上

【荒川中学校 間山晃喜】

青森県防災教育センターでは、地震の被害が最大になるケースについて学びました。青森県で最も被害が最大になるのは、真冬の深夜です。推定死者数は約 19 万人。冬は積雪により家が倒壊しやすく、救援物資の到着が大幅に遅れ、避難先でも低体温症になる恐れがあります。そのため、カイロや手袋など、防寒グッズを準備しておく必要があります。

防災教育センターでの体験



煙避難体験



消火体験

他には、災害時に自分の身を守るための消火体験や煙避難体験などを行いました。

地震体験

- ・東日本大震災など、実際に起きた地震の体験
- ・予想以上の「恐怖」



冷静に対処するために

心構え

備え

一番印象に残ったのは地震体験です。東日本大震災の最大震度は 7。人が立っていることができず、這わないと動くことができない揺れが約 3 分間も続きます。座っていても体が浮き上がるような揺れに、恐怖を感じました。

「自然災害は忘れた頃にやってくる」

災害はいつ発生してもおかしくないという「心構え」と、災害への「備え」が大切です。

災害への備え、できていますか？



自助

青森県のHPから
ダウンロードできます

あおり
あおり
手帳

「あおりあおり手帳」には、災害時に必要な知識がまとまっています。自分のリュックに最低限の生活用品をまとめておく。避難時のケガ防止のため、寝室にスリッパやスニーカーなどを準備しておく。小・中学生でも、できることはたくさんあります。災害による被害は、日頃の努力で減らすことができるのです。

まだ「備え」をしていない人は、今日からできることを見つけましょう。

ねぶたの家ワ・ラッセは、2011 年 1 月にオープンした観光交流施設です。さて皆さん、2011 年と言えば、どんな災害があった年でしょうか。

それは、東日本大震災です。ワ・ラッセ開館の2ヶ月後のことでした。青森市は停電になり、近くの青森駅では帰宅が困難になった人々がたくさんいたそうです。1階の交流学習室は、帰宅困難者を受け入れ、そのまま避難所として開放しました。もともと避難所ではありませんでしたが、市役所職員の援助や、避難者同士の助け合いにより夜を越したそうです。私は観光施設が災害時に活用されたことに驚くとともに、災害発生時の「共助」の大切さを実感しました。



帰宅困難者の受け入れを行い、避難所となった1階の交流学習室

公助 共助

青森市文化交流施設ねぶたの家ワ・ラッセHPより

【甲田中学校 木戸愛理】

私たちは青森空襲資料常設展示室で、青森空襲について学習しました。

1945 年 7 月 28 日の夜、青森市に焼夷弾が 83,000 本投下され、この攻撃で市街地の約 90 パーセントが焦土と化しました。り災者は 70,166 人。防空壕に逃げ込んだ人々の多くは亡くなり、死者の 84 パーセントを占め、北日本最大の被害が出ました。

なぜこれほどの被害が出てしまったのでしょうか。その理由は主に 4 つです。

1 つ目は「避難が禁じられたこと」。青函連絡船が撃沈されるのを目の当たりにして多くの市民が避難したのに対し、青森市は街を守る人を確保するため、帰らなければ物資の配給を停止すると発表しました。このため、避難していた市民は家に戻ることになったのです。

2 つ目は「警察による空襲予告ビラの回収」。アメリカ軍は事前に空襲を予告したビラを約 6 万枚まいていましたが、「敵の謀略」とされ、警察などによって全て回収され、市民が読むことは許されなかったのです。

3 つ目は「M74 焼夷弾の投下」。青森の上空にきた B29 は、殺傷力と火力の強い焼夷弾を 1 時間 11 分にわたって投下しました。1 分当たり平均千本以上の焼夷弾を投下し続ける攻撃で、市街地が焼き尽くされることになりました。

4 つ目は、「防空壕が崩れたこと」。市民は空襲から身を

市内平和関連施設見学

1945年7月28日 夜

- ・焼夷弾83,000本
- ・市街地90%→焦土に
- ・り災者70,166人
- ・死者の84%は防空壕

北日本最大の被害

青森空襲展 (中央市民センター)

北日本最大の被害、その理由は？

- ① 禁じられた避難
- ② 警察のビラ回収
- ③ M74焼夷弾投下
- ④ 防空壕が崩れる

米軍の空襲予告ビラ M74焼夷弾



守るために防空壕に逃げたものの崩れてしまい、亡くなった人が増えました。

青森空襲の傷跡は、今でも青森市内に残っています。本町にある、青森製氷株式会社の倉庫は、青森空襲で焼け残った建物の1つです。倉庫の壁には、空襲によって黒く焼けこげた跡が残っています。

初代平和観音像 (リンクステーションホール青森)



金井元彦（当時の県知事）が発起人
三国慶一（彫刻家）が制作

昭和23年 柳町ロータリーに設置
昭和39年 柳町のグリーンベルトへ移設
平成5年 撤去補修後リンクステーションホールへ

皆さんは平和観音像を知っていますか。戦後、青森空襲によって亡くなった人々の霊を慰め、青森に暮らす人々の復興と平和を守り祈るために、当時の県知事が発起人となって作られました。現在柳町通りにあるものは2代目で、初代の観音像はリンクステーションホール青森の2階に設置されています。平和を願う人々の思いを、これからも受け継いでいきたいと思いました。

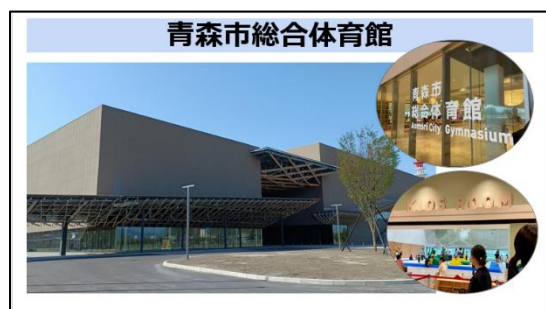
青森市平和祈念式典 7月28日

7月28日「青森市平和の日」
→青森空襲のあった日

- 市民の平和意識の高揚
- 亡くなられた方への追悼
- 平和を祈念
- 非核・平和のまち宣言
- 青森市平和の日条例



平和を願う式典は、青森空襲のあった7月28日に、毎年行われています。私たちも参加しました。浪岡遺族会会長の西村さんのお話を聞いて、家族を失ったご遺族の傷は今も癒えていないのだなと思いました。また、遺族や戦争経験者の高齢化が進んでいるということが分かり、戦争の記憶を風化させないように、若い世代の私たちが受け継いでいかなくてはいけないと思いました。



【甲田中学校 甲地諒】

ここは、3か月前にオープンしたばかりで、誰でも利用できる青森市総合体育館です。国立競技場を設計した、隈研吾さんがデザインしました。2つのアリーナの他に、子供が楽しく遊べるキッズルームがあります。防災施設としての機能も備えています。広大な屋根付き空間「ヨリドマ」は、約7,650人入ることができ、メインアリーナとサブアリーナの壁を取り外すことで一続きになり、何倍もの人数が入れる広い空間を作ることができます。

また、卓球などで使われる防球フェンスは、一見普通ですが、断熱シートで作られています。緊急時には寝袋や寒さをしのぐ毛布の役割を果たします。

防災設備①

公助 断熱性の防球フェンス

屋根付き多目的空間
ヨリドマ

体育館の周りには、マンホールトイレを設置できます。災害時には、蓋を開けて、テントを張ると、個室のトイレになります。

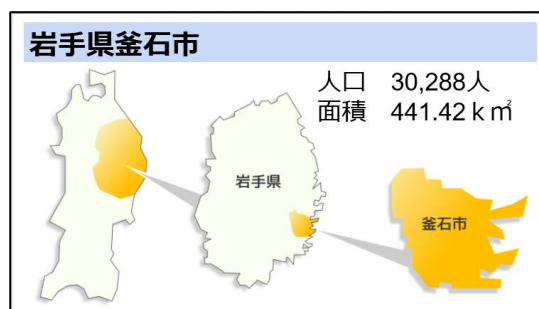
防災備蓄倉庫には非常食や衣類、毛布などが保管されており、長期の避難生活に必要なものがそろっています。普段はみんなが利用できる施設ですが、防災設備もしっかりと整っており、万が一に備えています。



【筒井中学校 伊藤萌々花】

私たちは3日間、釜石市へ研修に行ってきました。

釜石市は岩手県の沿岸部に位置する市で、人口は約3万人です。釜石市は戦時中、本州で初めて2度の艦砲射撃を受け、東日本大震災では津波により大きな被害を受けました。戦争、自然災害ともに大きな被害があった街です。



私たちは釜石市役所を訪問し、副市長と教育長から激励の言葉をいただきました。市役所は現在建て替え工事を行っていましたが、旧市役所は震災当時からある建物です。旧市役所の壁には、津波の浸水を示す表示がありました。釜石市のあらゆるところに、この表示がありました。

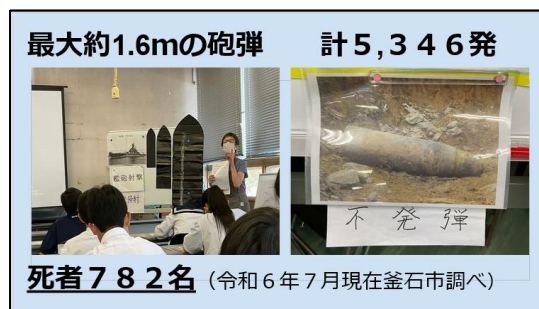


皆さんは「艦砲射撃」を知っていますか。

艦砲射撃とは、軍艦に積んだ大砲で攻撃することです。つまり、海から無数の砲弾が飛んでくるのです。釜石市は「サウスダコタ」と呼ばれる200メートルもの大きな軍艦から艦砲射撃を受けました。砲弾1つの大きさは約1.6メートル。私たちと同じくらい大きさの砲弾が、「一斉掃射」という同時攻撃により、釜石の街を襲ったのです。



釜石市は1945年の2度の艦砲射撃で合計5,346発打ち込まれ、782名もの尊い命が犠牲になりました。防空壕の中で圧死してしまった人や、火災により亡くなってしまった人が多かったそうです。亡くなった人一人一人に、家族や大切な人がいたはずです。実物を見たり、説明を聞いたりする中で、より戦争がどれだけ悲惨なものであったのかを実感しました。

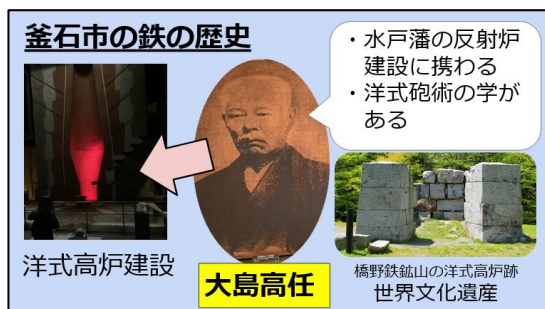




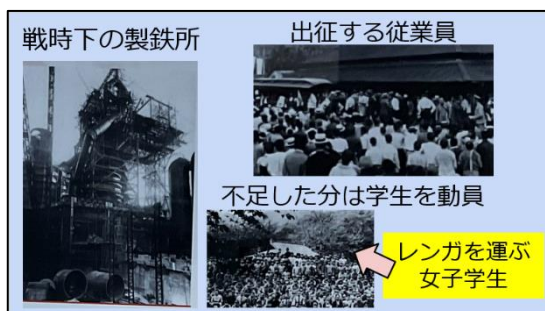
【新城中学校 成田慶士朗】

ここでは、釜石市が「鉄のまち」と言われるようになった経緯を学ぶことができます。

釜石市はなぜ「鉄のまち」と言われているのでしょうか。釜石市では、質の良い鉄鉱石が採れたので、古くからたたら製鉄という方法で製鉄が盛んに行われていました。



しかし、江戸時代到大砲作りが盛んになると、効率よく鉄を生産できる高炉が必要になりました。この問題を解決したのは大島高任です。水戸藩の反射炉建設に携わり、洋式砲術の知識を持っていました。大島は日本初の洋式高炉を釜石市に建設しました。



戦争が始まると、大砲や船の材料となる鉄の生産は、より盛んになります。製鉄所で働く人が戦場に派遣されると、働く人を確保するために釜石市の学生が動員されました。女子学生たちはレンガを運ぶなど、年齢や性別に関係なく鉄の生産に携わっていました。しかし、この製鉄所が敵の攻撃対象となってしまいます。製鉄が盛んな街であったことが、敵に狙われる原因になってしまったのです。



【新城中学校 四戸華撫】

私たちは釜石市の中学生と釜石市戦没者追悼・平和祈念式に参加しました。

式典では、艦砲射撃を体験した鈴木洋一さんが作った紙芝居の朗読を聞きました。特に印象に残ったことは、当時小学生だった鈴木さんが、戦火から逃れた防空壕の中での場面です。身動きができないほどたくさんの人々が集まり、熱くなった狭い防空壕の中で、低い姿勢のまま何時間も爆撃が終わるのを待ったそうです。

いつ終わるかわからない爆撃の恐怖は、想像を絶するものだったことでしょう。



青森市と同じように、釜石市にも「平和都市宣言」がありました。式典の最後は、参加者全員で「永久の平和都市たること」を宣言し、平和を守っていく決意を新たにしました。どちらの市も戦争で被害にあった過去から、切実に平和を願っていることが分かり、両市の願いをしっかりとつないでいきたいと思いました。

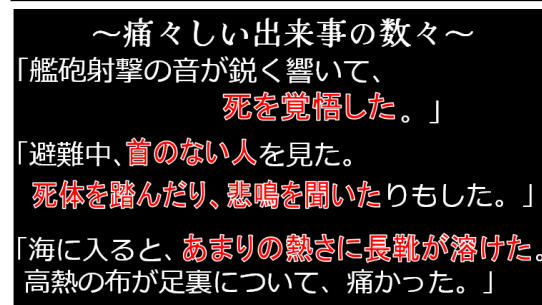


釜石市役所内で、語り部「颯・2000」による戦争体験談を聞きました。

内容は、当時私たちと同じ中学生だった、和田おとこさんの手記です。体験談の内容は、聞いているだけでも胸が痛むものでした。音だけで死を覚悟する艦砲射撃の恐ろしさ、当たり前のように転がっている死体、艦砲攻撃により長靴が溶ける程の熱さになった海。この手記を書いた方は、想像もつかない残酷な状況をくぐり抜けてきたのです。



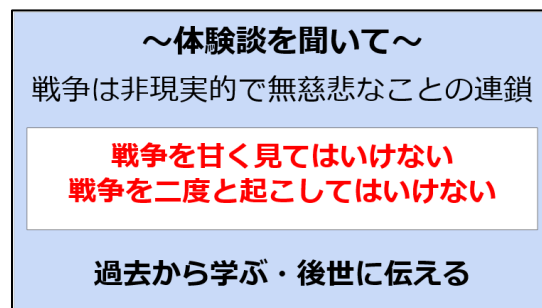
戦争は私たちが想像できる範囲をはるかに超える残酷なものです。戦争を甘く見たり、戦争という選択肢を選ぶことは絶対にしてはいけません。だからこそ、同じ悲劇を繰り返さないために、私たちは過去に起きた戦争から目をそらさず、学び続けていきます。そして、体験談を紹介してくれた方々のように、学んだことを後世に伝えていくことが大切だと感じました。



【筒井中学校 仲原卓土】

いのちをつなぐ未来館は、2019年にオープンした釜石市の防災学習施設です。

この施設があった場所は、東日本大震災の時200名が避難してきて、160名以上が亡くなるという大きな被害があった場所です。なぜこの場所で、これほど多くの命が失われてしまったのでしょうか。理由は大きく3つあります。





なぜ多くの命が失われたのか？

- ①防災センターという名前による誤解
- ②津波避難訓練で利用されていたこと
- ③想定を超える高さの津波



1つ目

この場所にあったのは、「鶴住居地区防災センター」という施設でした。この施設は、避難生活を送る「避難所」であって、津波から逃れる「避難場所」ではありませんでした。防災センターという名前から、津波の緊急避難場所であるという誤解が生まれてしまったのです。

2つ目

住民の参加率を上げるために、高台の避難場所ではなく住宅街に近いこの場所で避難訓練が行われていました。地震が起きたらこの施設に逃れる、という意識が住民に根付いてしまったのです。

3つ目

釜石市を襲った津波は11メートル。ハザードマップで示された浸水域をはるかに超えるものでした。結果、防災センター2階の天井付近まで達した津波は、多くの人の命を奪うことになりました。

「避難場所」と「避難所」の違いのように、正しい知識を身につけること。避難訓練は、ただやればよいというわけではないこと。「想定はあくまで想定」であり、より大きな災害が起こりうるということ。私たちはこの出来事から学ぶことがたくさんあります。



誰もが想定できなかった規模の津波が襲った釜石市。そんな中でも、1人も死者を出さずに津波から逃れることができた人々がいます。それは、しおりでも紹介されている、釜石市の小・中学生です。釜石東中学校と鶴住居小学校の小・中学生約600人のうち率先避難者となったのは、中学生でした。避難の途中、街を襲う津波を目撃し、恐怖で動けなくなる人もいた中で、中学生が小学生の手を引いて、ひたすら走ったそうです。また、道中で保育園児の避難を手助けしたり、車椅子を押したりなど、「助けられる人から助ける人へ」を実践する人もいました。1人1人が、ぎりぎりの中で最善を尽くしたのです。

子どもたちが全員無事だったこの出来事は、「釜石の奇跡」と呼ばれ、賞賛されました。

しかし、釜石の子供たちをはじめ、避難した人々はどれも「奇跡」だとは思っていませんでした。海岸近くに暮らす釜石の子供たちは、普段から避難訓練に真剣に取り組み、小中合同の避難訓練も行われ、日頃から協力して逃げる練習を重ねていました。

また、三陸地方には古くから、「津波が来たらてんでんばらばらに急いで早く逃げよ」という意味の「津波てんでんこ」という言葉が伝わっていました。

全校朝会などで、よく話題にされていたそうです。この言葉と、避難訓練の積み重ねが子どもたちの命を救ったと言えます。

私は、正しい知識を得ることの大切さ、日頃の訓練の重要性、そして災害時の共助の大切さを実感しました。また、災害時に率先して行動し、最善を尽くせる人になりたいと強く思いました。

【荒川中学校 白坂 奈珠】

山と海に囲まれた、自然豊かな釜石鵜住居復興スタジアムは、2019年にラグビーワールドカップが開催された地として有名です。ではなぜここでワールドカップが開かれたのでしょうか。それにも実は、震災のことが関係しているのです。

実はこの場所には、津波で流された鵜住居小学校と釜石東中学校がありました。「子どもたちに夢と希望を与えたい」そんな強い願いのもと、釜石市はラグビーワールドカップの開催都市に立候補しました。開催都市決定後、地域の希望であるこの場所にスタジアムの建設が決まったのです。

迎えた2019年。約14,000人の観客がこのスタジアムに集まり、白熱した試合に人々は熱狂しました。試合前には、東日本大震災で亡くなられた方々への黙祷を選手や観客全員で行ったそうです。釜石市は、このワールドカップの試合を通して、復興支援への感謝と、復興に力強く取り組む姿を国内外に示しました。

「奇跡じゃない。僕たちは、学校で教わったことをそのまま実行しただけ」（釜石小6年生）

日頃から様々な形で行われていた**避難訓練**

「**津波てんでんこ**」の言い伝え



防災施設としてのスタジアム

- ・ 100tの貯水槽
- ・ 120tの貯留槽
- ・ 高さ15mの「水門」とスタジアムの5mの底上げ
- ・ 避難通路の確保



震災からの学びを後世へ受け継ぐ場所へ

スタジアムは災害時の備えも十分にされています。ご覧のように、飲料水 100 トンを貯める貯水槽、消火用水 120 トンを貯める貯留槽があります。最大 20 メートルの津波を想定し、高さ 15 メートルの水門とスタジアム全体を 5 メートル底上げする設計の工夫もあります。さらに、万が一に備えて、裏の山へつながる緊急避難通路も確保されていました。

スタジアムは、震災から学んだ教訓がしっかりと活かされた象徴的な場所になっていることがわかりました。

これまでの学習を踏まえて、釜石市の中学生と意見交流をしました。話し合ったテーマは2つです。難しいテーマでしたが、3 グループに分かれて、意見を出し合いました。

釜石市中学校の生徒との意見交流



話し合いのテーマ

- ① 「戦争はなぜ起こるのか」
- ② 「戦争を起こさないために中学生の私達にできること」

「なぜ戦争は起きるのか」に対しては、「自分のことばかり考えているから」「人にとって正義の捉え方が違うから」といった意見が出ました。「戦争を起こさないようにどのようなことをすればよいか」については、「武力ではなく、言葉で話し合う」「相手を知る・思いやる」といった意見が出ました。

- ・ 自分のことしか考えていない
- ・ 相手を知らない
- ・ 話し合うよりも簡単
- ・ 正義の捉え方の違い



戦争はなぜ起こるのか

- ・ 武力から言葉へ
- ・ 相手（他国）を知る
- ・ 思いやる
- ・ 相手の主張を聞く

戦争を起こさないために

意見発表の様子



相手の立場を考える（思いやり）言葉で解決する



人と人との関係にもあてはまる

【横内中学校 小野珠莉亜】

話し合いを通して、戦争を起こさないようにするには、相手の立場を考えたり、言葉で解決しようと心掛けることが大切なのだと思います。そして、これは国と国との関係だけではなく、人と人との関係にも言えることだということに気付きました。ちょっとしたいさかいやすれ違い、相手を傷つける言葉。普段の日常生活の中にも、争いの種は転がっています。人と人が争う戦争。それを防ぐための鍵は、私たち 1 人 1 人の中にあるのかもしれないと思いました。

釜石市郷土資料館には、東日本大震災の記録や、戦時中の釜石市に関するたくさんの資料がありました。私たちは釜石市で学んだことを一つ一つ振り返りながら、展示を見ました。そして、館長さんが話してくださった、「自然災害と戦争の違い」の話は、大きな気付きを与えてくれました。自然災害は自然が引き起こすものです。人の手で止めることはできません。だからこそ、私たち 1 人 1 人が、日頃から対策、対処することが大切です。正しい知識と備えを持



釜石市郷土資料館

っておくことで、被害を最小限にできます。

一方で、戦争は人が引き起こすものです。人の力で防ぐことができるはずなのです。防ぐためには、自分たちにできることを1人1人が考える必要があります。同じ世界で暮らす人間同士、戦争という手段を取らなくてもよい世の中を、みんなで作っていかなくてはなりません。

自然災害も戦争も、「1人1人の行動が重要」という点では同じだということが分かりました。自分たちが暮らす世界の平和を自分で守るためにも、私は自分にできることをこれからも考え続けたいと思いました。

世界では、いまだに戦争が続いています。ウクライナでは、2年半にわたるロシアの軍事侵攻によって、多くの学校が破壊されました。対面で学んでいる小・中学生は、わずか3分の1程です。

今年8月のニュースです。イスラエルとハマスの戦闘が続くガザ地区では、避難者が身を寄せていた学校をイスラエル軍が空爆し、多数の死傷者が出ました。爆撃は、今も続いています。

今年の1月に起きた能登半島地震は記憶に新しいはずです。復興へ向かう中、9月の記録的な大雨により再び大きな被害を受けています。

これらの出来事は、あなたに関係のない出来事でしょうか？

自然災害と戦争の違い	
【自然災害】 <u>自然</u> が引き起こす <u>止めることは出来ない</u>	対策・対処 する
【戦争】 <u>人間</u> が引き起こす <u>止めることが出来る</u>	自分たちに 出来る事を 考える





平和とは、

だれもが命をおびやかされないこと
言葉や行動を不当に制限されないこと
こうして学校に通って勉強ができること
とりとめのない話が友達とできること
オリンピックやねぶたなどのイベントが開催できること

私たちが当たり前だと思っていたことは、実はとても尊いものなのです。戦争や自然災害が起ると、当たり前が奪われてしまうのです。だからこそ、考え方や感じ方の違う人、文化や言葉が違う人が手を取り合って、全ての人にとっての「平和な世の中」をみんなで作っていかなくてはなりません。

全ての人にとって平和な世の中にするために、一番やってはいけないことは、「無関心」でいることです。隣に座っている人のこと、学級のこと、学校のこと。まずは身近なところに関心を持つことから始めましょう。どんな考え方の人が周りにいるのか知ることが第一歩です。そして、自分がいる場所をより良くするために、自分にできることを考えてみましょう。

まとめ 平和防災学習事業を通して
自分たちの生きる世界を自分たちで
良くしていくために
1人1人の考え方が重要
世の中に**関心を持つ**
自分にできることを考え続ける

この平和・防災学習を通して、平和を守っていくことも、自然災害の被害を減らすことも、「1人1人の考え方が重要になる」という点では同じであるということが分かりました。自分たちが生きる世界を、自分たちの手で良くしていく。みんながそう思って行動に移すことで、世界を変える力になるはずです。

戦争を絶対に繰り返さないために。自然とこれからもうまく付き合っていくために。私たちの暮らす社会をより良いものにするために。

私たちはこれからもっといろいろなことに関心を持って生きていきたいです。そして自分にできることをこれからも考え続け、行動に移したいと思います。

最後に、今回このような機会を与えていただき、たくさんの方に気付かせてくれた西市長、そして今回の事業で出会った全ての方々に心から感謝しています。本当にありがとうございました。

これで私たちの発表を終わります。ご清聴ありがとうございました。



○平和と防災を考え、受け継ぐ集いに参加した小学生の感想

- 自然災害や戦争の怖さが分かりました。そのとき起こったことなどもスライドで分かりやすく学びました。自然災害は止められないけど、対策をすることができるので、防災グッズや避難場所などを確認したいです。戦争は、人間が起こすものなので止められるから、話し合いなどで戦争をやめさせるようにしたいです。だからこそ、最後みんなで歌った歌は、みんなで仲良く生活するために、とても大事なものだと思いました。
- 災害は、自然が起こすことなのでそれに備えたり、準備したりすることで、被害を減らせるのではないかと思います。なので、今からでもしっかりと対策をしていこうと思います。戦争は、私が体験したことはないのですが、お話がとても参考になりました。そして、ウクライナとロシアが戦争を起こしている現状について、私たちの元へ来るかもしれないと思うと怖いです。自分たちが頑張って呼びかければ止められるのかなと思います。とても貴重な体験でした。
- 青森市や釜石市でも戦争の被害にあっていることが分かりました。自然災害は止めることができないけど戦争は人間がやっていることだから今も戦争が続いているので少しでも減らしたいです。色々な人が使う公共の場には防災器具や災害時に必要なものなど色々なものがあることが分かりました。この発表を聞いて防災のことや、戦争のことがよく分かりました。
- 平和のことについて争いがないことだけでなく、お互いに認め合うことや、笑顔になれることも、「平和」につながるのだなと思いました。身近にもたくさんの「平和」があると思うので、自分でもたくさんの平和を見つけていきたいです。
- 私は今日とても恐ろしい震災や戦争の話聞いて、自分たちの暮らしがどれほど安全で幸せなものかを考えさせられました。いつも自分たちが使っている施設が万が一のために、避難所になるというのは、昔のことを繰り返さないことを実際に再現していると思いました。立ってられないほどの地震や防空壕が崩れたりすることがない安全な時代でもこの恐ろしい事を忘れないために私たちも次の世代へ昔のことをつないでいこうと思いました。
- 学校に来られていること、友だちと楽しく話せていること、家族といつも会えること、このような当たり前と思っていることさえ、自然災害や戦争があると行えなくなる。いつも平和に過ごせていることにとても幸せを感じました。今回はこのような集いを開いていただき本当にありがとうございました。また、今日の出来事を学校の友達や家族などに話し、広めていきたいです。
- 私は、今日、「平和と防災を考え、受け継ぐ集い」で平和とは？というので、私たちが「当たり前」と思っていることが平和ということが分かりました。私は、戦争がないことが平和だと思っていたので、今日、平和のことを知ることができて良かったです。これからは、1日1日を大切に過ごそうと思いました。
- 自然災害や戦争で亡くなられた方々の声が心に聞こえたように感じました。自然災害は止められないけれど備えたり準備をしたりしたいです。戦争は止めることができるけれど戦争を起こさないことが重要ななと思いました。日本だけではなくこのことが世界中に広がったらいいなと思いました。

○平和と防災を考え、受け継ぐ集いに参加した中学生の感想

- 平和とは当たり前に生活していくことだと分かりました。今、石川県の方では震災が起こっていて、私と同じくらいの年齢の中学校3年生が行方不明になり遺体となって発見されたというのを聞いてとても気の毒だと思いました。私が同じような事になったら、とても悲しくまだまだ人生があるのに、生きられないのはとても残酷だと思いました。私は、学校に行き、普通に生活することは、幸せなことなのだと今回の話を聞いて改めて思いました。自然災害は止めることはできないけれど、事前に対策をすることで、防げることもあると気付きました。また、戦争は自然災害とは違って、止めることはできるので、二度と同じことを繰り返さないようにするのが大切だと分かりました。
- 岩手県に研修しに行った生徒の発表を聞いて、青森空襲もすごかったけれど、岩手県でも悲惨な事が起きていたのだと知りました。青森県では空からの爆弾がすごく町ごと焼け、岩手県では海から私たちの身長ほどの爆弾が何発も飛んでくるという、どちらの県でも恐怖の体験をしたんだと思います。自然災害は自然に起こるものなので、対策を練る。戦争は人間が起こすものなので、止めることができる。この違いを、今後大切にしたいと思いました。いつ大きな地震が来るか分からない今、今日のような集いを企画してくださりありがとうございました。とても貴重な経験となりました。
- 戦争は負の連鎖でしかなくて、歴史を学ぶことの大切さとは、二度と悲劇を繰り返さないようにしなくてはならないからだとして改めて感じました。戦争に至るまでには様々な原因や、正義が存在したとは思いますが、戦争によって奪われる命と天秤にかけたとき、本当に大切なものは何なのかを冷静に考え直し、平和を常に望み続ける世界であってほしいと思いました。
- 今日の平和と防災を考え、受け継ぐ集いに参加して、今まで東日本大震災のことなどはいくつか聞いたことがありましたが、初めてのものや空襲、砲撃などの今まで意識したことがないことを聞いてとても勉強になりました。派遣生徒による体験報告で平和な社会を作るためには関心を持ち自分にできることを考えて行動することが大切だと分かりました。これからは無関心にならないように周りのことに目を向け、相手のことを思いやり助け合っていきたいと思いました。
- 今回のこの発表を聞いて、改めて平和や釜石市の奇跡について考えたりすることができました。青森県で冬の深夜にもし、災害が起きた場合、救助が遅れる可能性があるため、日頃から防災グッズを準備しておこうと思います。釜石市の奇跡では、釜石市の中学生が率先して動き、死者0人という奇跡を起こすことができました。それは、日々の避難訓練を真剣に取り組んでいたからだということを知りました。なので、私も日々の避難訓練を真剣に頑張りたいと思いました。こんな機会を設けてくださり、本当にありがとうございました。
- 発表の中で一番印象に残ったのは青森空襲でした。教科書で見るのは「東京大空襲」や「沖縄戦」など、青森市よりも多くの犠牲者と損失があったものですが、青森空襲もそれと変わらないような残酷な内容です。正直に言えば、今まで青森空襲の存在を知りませんでした。無知は罪だと実感しています。戦争で多くの命が失われ、同時に大切なものがなくなってしまうのは、決して忘れられてはいけないものだと思います。「知らない」だけではいけないのだと、発表を聞いて改めて考えることができました。

3 活動を振り返って

○青森市中学生（派遣者 10 名）の感想

筒井中学校 仲原 卓土

今回の研修を通じて、青森市と釜石市の平和と防災について知識を深めることができました。特に青森市の平和については、青森空襲で青森市の半分が焼け野原になりたくさんの犠牲者が出たことと、生きていた人も周囲から焼夷弾が落とされ、逃げるのに苦労したということが分かりました。防災については、今後のシミュレーションで、青森県でも内陸地震や日本海溝地震などが起きる可能性があり、その際には青森市はもちろん、県内全域で多くの被害が出るということが分かりました。これから想定される南海トラフ地震や千島海溝で起きる地震などで、特に千島海溝地震では青森市は津波の被害や、死者が 10 万人～19 万人程まで出ることを知り、身近な人にこのことを伝え一緒に考える機会を作っていこうと思いました。

市内の研修では、青森県防災教育センターでの研修が心に残っています。煙が充満している部屋に実際に入り、煙が立ち込めているときの避難の仕方をしっかりと詳しく知ることができました。そして自助・共助などを大切に、これから起きる地震についても冷静に判断し安全に避難ができるように日々注意したいと思いました。また、青森空襲資料常設展示室の資料を見て、防空壕へ避難した人が半分以上亡くなってしまったということや、津軽海峡でも青函連絡船が 10 隻以上砲撃され、沈没したことを知りました。青森市の中央地区など合わせて 90 パーセントが焼け野原になったということが、想像が付きませんでした。普段何気に見ていた市役所前の親子の石碑は、犠牲者の冥福とこれからの平和を祈念し末永く後世に伝えるために作られたということを知りました。総合体育館の防災倉庫には石油ストーブが 10 台以上あり、非常食も 4,000 人分確保できるようにしていると聞き、しっかりと防災をして、なおかつ楽しめる場所としても良いと思いました。平和や防災のことがとても勉強になりました。

筒井中学校 伊藤 萌々花

市内で研修を行い、戦争がどれだけ悲惨だったか、災害が起こったとき、どれだけ大変なことが起こるのかが分かりました。研修の中で柳町通りの観音像の話が頭に残っています。今までは、ただ何気なく通りかかった時にちらっと見ている程度でした。しかし、今回の研修を通し、どのような思いを込めてあの観音像を作ったのか、戦時中の青森市は、どんな様子だったのか、ということを、しっかりと学ぶことができました。

釜石市の視察研修で印象に残っている場所は、鉄の歴史館です。理由は、クイズラリーがあったことと、他には、スクリーンでの紹介、その後ろの仕掛けもとても分かりやすく、印象に残っています。釜石市がなぜ、戦争中に艦砲射撃を受けたのかという理由も分かることができ、大変参考になりました。

また、戦争体験談では、戦争があった昭和 16 年以降の生活の様子（人々の暮らし）や、どんな場所に逃げていたのかがよく分かるお話を聞くことができました。どれだけ辛かったか、どれだけ苦しかったかは、実際に体験していないため、全て分かるわけではないですが、それでも、風化させない、忘れさせないためにも大切なことだと思います。

この青森市平和・防災学習事業に参加して、一番忘れてはならないと思ったことは「風化」です。釜石市は苦しかった記憶、悲しかった記憶、悔しかった記憶が、時間とともに消えつつあるという現状をしっかり受け止め、どんな過去であっても、隠さず真^たっ直ぐ伝える力強さと、「撓^{たわ}まず屈せず」という言葉のように生きる素晴らしさを持っている市だと感じました。

横内中学校 工藤 功太郎

東北中学校陸上競技大会と重なったことにより、残念ながら釜石市へ行くことができませんでしたが、青森市内での研修は大変有意義なものとなりました。

まず、西市長より任命状を受取ってから、平和と防災に関する研修会が行われました。青森空襲の体験者が語る当時の悲惨な状況を聞き、改めて、当時の悲惨な様子が情景として浮かびました。防災についても、自分も防災の意識を高めるようにし、学校の人にも家族にも防災の大切さを伝えられるように知識を深めたいと思いました。

その後、釜石市の生徒と一緒に平和祈念式典に参加したり、平和や防災について学習したりしました。その中で一番印象に残っていることは、青森県防災教育センターでの研修です。まず、県内の震災の発生状況を学び、青森市はこれまでに大きな震災はないものの、降雪による災害が過去に発生したという状況を学びました。その後、消化器の使い方を学び、煙がこもっている場所に入り、実際の見え方を体験し、震度7の地震体験などをしました。いつ地震や火災など起こってもいいように、ハザードマップの確認や、非常時に持参する物資の確認など、日頃より防災の知識や準備を行うことが生存のために必要なことだと思いました。また、平和祈念式典に出席し、戦争を二度と起こさないようにしたいと再度思いました。これからもこの3日間で学んだことを活かして、災害や戦争紛争のことを忘れないように生活していきたいです。

また、青森市各地に戦争の悲惨さを伝えるような建物や資料が残っていることを学び、それを実際に見て分かることもありました。今そのようなものが失われている中で、どう伝えていこうか考えることが我々の今後の課題だと思いました。

横内中学校 小野 珠莉亜

青森市での研修で、平和というのは「当たり前のことが当たり前にできること」と聞いて納得しました。今の生活に無意識に感謝していないというのはとても平和である世界に恵まれている証拠なのかな、と思いました。青森市は平和と強く結びついている街と聞いてあまりピンと来なかったのですが、その成り行きを聞くとしっくり来ました。戦争が無くなり平和になったことで生まれた街と考えると、なんだか青森市が誇らしく思えます。また、青森市は焼け残った建物が数軒あるのですが、年々耐震の関係で大切な資料ともなる建物が少なくなっているという事実を聞き悲しくなりました。青森市から戦争が消えたのは大変喜ばしいことですが、あったはずの戦争の残酷さが忘れ去られていくのは違うと思います。これからも年月が経っていく度に戦争の恐ろしさを知る資源が減っていくのでしょうか。そう考えた時に、こうしてまだ資源が多くある時代に、学ぶチャンスを与えて頂いたのは大変光栄なことであり、決して無駄にできません。今回の機会では伝えられた事は一切こぼさず受け取り、多くの人々に分かりやすく伝えて行こうと決心しました。

平和関連施設では、戦争について非常に詳しく知ることができました。平和を学ぶというより、戦争の惨さを嫌と言うほど学びました。文字と画像だけでも眉間に皺が寄るほどなのに、実際に戦争の被害を受けた方々はどれほど苦しく辛かったか、考えるのも辛いですが、そこであった現実から目を逸らすのはもっと辛いです。過去の人たちが苦しんだ分、その苦しみを少しでも継いでいかなければならないのです。今回は当時のポスターや実際の軍服など、本当に大変貴重な資料を見させていただきました。

八甲田丸では、歴史を感じるものが多くあり、特に戦争の最中の時代背景を感じる物が多くありました。八甲田丸にあった神棚を見てどこか悲しくなりました。結局は神頼みであり、それほど戦争は無慈悲で、理不尽なものなのだなと改めて実感しました。

総合体育館では、防災の工夫が隅々まで施されていて感心しました。多くの物資やトイレ、保温性のある布などはもちろん、災害ライト付きのトイレやかまどベンチなどの細かな視点から生まれた設計、景観や建築素材のこだわり、子供用の遊び場などの精神面の配慮等、さすがと言わざるを得ませんでした。これも過去の経験から改良に改良を重ねてできた結晶だと感じました。

続いて、釜石市での研修は青森市での研修とはまた別に、災害や戦争についてだけではなく、異なる歴史や文化を知ることができて面白かったです。釜石市は製鉄がとても盛んであり、艦砲射撃を二回も受けてしまいました。製鉄が盛んだったことが艦砲射撃の的となった理由なのかというふうに、新たに学んだものと新たに学んだもので更に新たなものを学ぶ感覚が面白かったです。釜石市は地形の関係上大きな災害を受けやすかったり、釜石の奇跡と言われる歴史を持っていたりと、災害と関わりが深い街です。その分、防災の取組に力が入っており、是非ともその心構えを青森市も受け継ぎたいと思いました。また、釜石市は二度の艦砲射撃を受けており、戦争とも関わりが深い街だと言えます。実際の戦争を受けた方の体験談を聞くことができ、釜石市の艦砲射撃を描いた紙芝居を見ることができ、戦争の恐ろしさをより知ることができる非常に貴重な経験をさせていただきました。

荒川中学校 間山 晃喜

青森市役所での最初の研修会では不安や緊張を感じましたが、市長の前で自分の意見をしっかり自信を持って言えて良かったです。その後は、青森市の平和への取組の話を聞きました。青森市で過去にあった戦争の話や防災の話を聞き動画なども見て、戦争などしてはいけないことなどをしっかり考えられて良かったです。その後は、釜石市の生徒と一緒に平和、防災について八甲田丸やワ・ラッセ等の施設に行きました。中央市民センターでは空襲の写真を見てメモを取ったり、八甲田丸で船の中を見たりワ・ラッセで東日本大震災の時のことなどをたくさん勉強してきて、空襲はすごく怖いものだとなることができ、空襲のあった頃は、このような服を着ていたのだと知ることができて良かったです。私は実際に空襲には遭っていませんが、私の母が働いている職場にデイサービスで来ている90歳になる女性が、「空襲の後の青森市は、焼け野原だった、何もかもがなくなっていた、あんなことは二度と起こってはいけない」と話していたそうです。

その後、釜石市では震災の状況や空襲の時のことをたくさん聞くことができ、釜石市の方とも色々話をでき、平和、防災の学習の他に仲間と協力して考えを生み出すことはとても大事なことが分かりました。この研修に参加して平和、防災のことをよく学べて良かったです。

荒川中学校 白坂 奈珠

今回、平和・防災学習事業に参加して本当に良かったと思いました。なぜなら、もちろん平和・防災のことも十分学ぶことができましたが、その他にも新しい仲間と一緒に考えて答えを探す楽しさや、一人で問題にしっかりと向き合い自分なりの考えを見つける達成感などを感じることができたからです。自分で考えた意見をそれぞれで出し合い、一人ひとりの考えを一つずつ、じっくりと皆で話し合ったことで自分の考え方の幅、見方が広がったと思います。平和・防災の点では今回新しく学んだことで身の回りへの見方が変わりました。この事業に参加する前は、何も思わなかった建物やニュースなどがたくさんありましたが、この事業に参加させていただいた今は、「この建物にはこんな思いが込められているんだ」「これはどうしてこうなるのか不思議だな」と何気ないものでも関心を持てるようになりました。今後は関心を持ったときに自分から調べるという行動力・積極性を身に付けていきたいです。また、「自分がこれから次の世代へ戦争と平和、災害と防災の大切さを伝えていかななくてはならない」という責任感と自覚を一層持つことができました。この時間はこれからの人生、みんなで未来を創るのにとっても大切な忘れられない充実した時間になりました。

この事業で学んだものをどう活かすかは自分次第なので、今回学んだことを次につないで、伝えて、自分にしかできないことを行って平和な社会に少しでも貢献できるようにしたいです。そして、学んだことを振り返り、新しい発見ができるようにします。そしてできる限り多くの人に深く平和の尊さを伝えられるようにしたいです。市内での研修と今回の派遣を通して、平和や防災への意識が高まり、一緒に勉強した仲間とも絆が深まり、飽きずに楽しく過ごすことができました。

新城中学校 成田 慶士朗

今回、ご縁があって青森市の代表派遣者として、釜石市を訪れることができました。とても充実した研修であり、勉強になることが多くてとても楽しかったです。

研修で印象に残った場所は、釜石市の二日目に見学した鉄の歴史館です。大島高任さんは洋式高炉を作り、「武器」となる鉄を大量生産できるようになりました。しかしそれが原因で釜石市は二回も艦砲射撃をされてしまいました。相手を弱らせるため集中的に釜石市を狙い、さらに民間の施設を攻撃してはいけないという戦争のルールも破ったりするなど、戦争はやはり残酷でとてもあってはいけないことだと改めて思い知らされました。

また、颯・2000の皆さんのお話からも驚きがありました。「戦争は愚かで最悪、自然災害とはまた違う」という言葉はとても複雑だと思いました。「戦争は愚かで最悪」は、言葉で解決するのに武力で解決しようとして人々を苦しめ殺してしまう、さらに相手はそれに気付いていないという意味だと思います。「自然災害とは違う」は、人には制御できない自然災害とは違い、戦争は仲間であるはずの人間の欲のせいで起こり、今でも時折起こっています。戦争は無くする、自然災害は防ぐ、というところが違うと思います。戦争を無くするためには「対話」がとても大切だと知りました。読むことで言葉を知り、対話をします。するとそれが経験になり、様々な人との付き合い方が分かるようになると思います。簡単に戦争を無くすることはできないと思いますが、その努力として義務教育も影響があるのではないかと思います。

また、釜石市の中学生との意見交流がとても有意義でした。「戦争はなぜ起きるのか」、「戦争を止めるために私たちができることは何か」というテーマで意見交流をしました。私たちの班では戦争を止めるためには相手の否定をしないという結果になりました。この結果は良いところを知らず相手のことを考えていないのが戦争を起こす原因で、その対策として一番多い意見をまとめた言葉です。相手を否定しないというのは颯・2000の皆さんが考えた戦争を止めるための対策の「対話」にも入っているのではないかと思います。釜石市教育長の話の中で出た「興味を持つ」のも対話には必要です。対話という言葉はこの世界に必要な要素なのではないかと思いました。青森市の研修と比べてまた違う災害や戦争への思いを感じられました。今回の研修はとても記憶に残りました。

新城中学校 四戸 華撫

私が研修で心に残ったことは、青森市が空襲を受けて、多くの死者が出たことです。ここまで死者が出ていたとは思っていませんでした。青森空襲の体験談の中で、「生きるか死ぬかじゃなく、ただ必死でした」と言っていました。必死で沼に飛び込み、命が助かったそうです。それを聞いて、沼に飛び込むということは普段絶対しないのでどれだけ必死だったかが伝わってきました。防災の取組については、災害のときには、自助、共助、公助が大切だということを知りました。そして、学校にはたくさんの防災グッズが置かれているということにも驚きました。ハザードマップなどを見て、防災家族会議をしたいと思いました。

釜石市での研修は、青森市の研修とは全然違いました。最初、釜石市の研修に参加してみない？と言われたときから盛岡市や花巻市は行ったことがあるけれど釜石市は知らないなと思いました。でも、知らない街を知りに行く。それが新しい知識を得ることなのかなと思い参加してみました。青森市では青森空襲があり、釜石市では2度艦砲射撃がありました。その違いもそうですし、釜石市は津波が来やすい地形で東日本大震災では津波に襲われたという。今回現地で感じたこと、艦砲射撃についてのお話、紙芝居、釜石市がどういう理由で狙われたかをしっかり学べたので生活に活かしていき、釜石市や艦砲射撃について知らない人に伝えたいです。今回の研修に参加して、前の自分より成長できたところがあります。前は戦争や災害は人ごとだと感じていたけれど、今回の体験を通して人ごとでは自分の命も守れないのだと考えさせられました。

甲田中学校 甲地 諒

研修会を通して平和や防災への取り組み方を改めました。今まで災害などとは関わりがありませんでしたが、全国的に大きめの地震や異常気象による大雨災害等が増えているため防災への意識を高めようと思いました。また、平和・防災学習事業で学んだことを地域の方々や学校の生徒たちにも詳しく説明できるようにしたいと思います。

防災について印象に残っている施設は、青森市総合体育館です。ここには防災備蓄倉庫があり、その中には生活に必要なものや、飲食品などがありました。卓球の防球フェンスがありそのフェンスの裏は保温ができる材質で作られており緊急時はそれを使えば保温されることが分かりました。また、青森県防災教育センターでは、過去に発生した大きな地震や、これから起きると予想されている地震を知りました。震度7の地震を体験してこんなに大きな地震がこれまで起きてい

たことを再確認しました。これから起きる地震に備えていつでも逃げられるように、ハザードマップの確認や、数日分の飲料水や保存食をしっかりと準備しようと思いました。

甲田中学校 木戸 愛理

今回、諸事情により釜石市への派遣が叶いませんでしたが、青森市の平和と防災についてたくさん学ぶことができました。作家の宗田^{そうだおさむ}理さんが書いた「ぼくらの太平洋戦争」という本がありますが、これは宗田さんが17歳の時、実際に経験したことをもとに書かれています。そこでは、防空壕に逃げ込んだけれどその防空壕が崩れてしまい、命が助からなかった人がいました。今回の研修でも、動画で女性の方が「小さな川や防空壕に逃げた人は助からなかった」と言っており、宗田さんの本の内容と関連するところが多く、防空壕に逃げたからといって必ずしもそこが安全ではないことを学びました。終戦からもうすぐ80年が経つので、当然当時の有様を語れる人は少なくなっています。この事業で学習したことを、戦争を知らない人々に伝えていきたいです。

防災への取組では、防災と聞けば一番に「地震や津波」と考えてしまいがちですが、それ以外にも風水害や火山噴火等も自然災害の一つだということを改めて認識しました。自然災害が発生した時、社会の時間にも習った「自助・共助・公助」が大切になってきて、特に「自助」と「共助」が重要になるということを学びました。自然災害中は地域の人々が一丸となって助け合わないと被害を最小限にできないと分かりました。その点、3,000人もの小・中学生が助かった「釜石の奇跡」は共助をしたからだろうと思い、とても興味深かったため、釜石市に行ったときは是非、関連するお話を聞きたかったです。

今回の学習で心に残った言葉は、「そのためにまず『あなた』が逃げる」です。これは動画の中にあった言葉で、公助では限界があるから日頃から災害に備え、いざというときには自分から率先して逃げなければいけないのだと思い知らされました。実際に災害が起こったときの避難を家族と確認し、今すぐ災害が起きても迅速に対応できるよう、日頃の意識を高めていきたいです。

全ての研修を終えて、心に残っているのは青森市平和祈念式典での追悼合唱です。今度の文化祭で校内の合唱コンクールがあるのですが、その学級合唱で「HEIWAの鐘」を歌うことになりました。この曲は青森県や岩手県（釜石市）ではなく、沖縄県を舞台にした曲ですが、戦争は愚かだという思いや平和を願う気持ちは、場所や時代が違っても皆思うことは同じなのだなと感じ、そういう意味でも人はみんな一人ではなく、つながっているのだなと思いました。今回の研修をきっかけに、平和に関することや災害の恐ろしさ、日頃の備えの大切さを多くの人に伝えていきたいです。

○釜石市中学生（派遣者 10 名）の感想

釜石中学校 三浦 碧人

青森市は釜石市と同じように戦争の被害を重点的に受けた市であることを知りました。

今回の交流で青森という県の様々な面を知ることができたので、しっかりと釜石市に持ち帰ってたくさんの人に広めていきたいです。

釜石中学校 川上 仁愛

青森市との交流を通じて、青森市の地震や津波、戦争について学び釜石市と青森市の共通点や相違点を見つけることができたほか、防災を行うことの大切さや平和の尊さを強く感じることができました。防災センターでは自分たちが生まれていない過去に発生した地震、現在想定されている地震を体験し、恐ろしさを感じました。被害予想も東日本大震災よりも多いとされていることを知り、備えることの意識が高まりました。

また、戦争は人や物だけでなく、当たり前も奪われてしまうこと知り、今こうして何事もなく生きていることがどれだけ幸せなことか改めて感じました。そして、戦争を経験した人が減っている今だからこそ、戦争を二度と起こさないために、これからの未来を生きていく私たちが受け継ぎ伝えていくことが大切だと思います。そのためにも、もっと戦争について深く学び、平和や防災について考えていきたいです。

甲子中学校 米澤 悠真

防災、平和をテーマにした交流事業では、青森市の主な災害や、避難する時についての学習と、青森市の空襲についての学習をしました。

「豪雪」という災害が冬にあり、全国で一番多く雪が降り積もることに驚きました。空襲では、1,000 人以上亡くなった説があります。青森港では、激しい攻撃をうけ、「青函連絡船」12 隻と、その他の船の 73 隻が全滅したということから、アメリカ軍の強さが分かりました。青森市の「平和祈念式典」や釜石市の「戦没者追悼・平和祈念式」に出て、戦争はもう二度と起こしてはいけなと改めて考えることができました。

甲子中学校 山根 来桃

日本は世界と比べて自然災害の割合が高く、災害大国と呼ばれています。その中で生きていくために、「自分の命は自分で守る」ということが大切だと学びました。実際に地震の体験をさせていただき、この揺れの中で、逃げ切れるのかという恐ろしさを感じました。

そして、世界では、民族や宗教の違い、資源や領土の問題から紛争が続いている国もあります。

今は遠い国で起きていることで実感が沸きづらい部分がありますが、日本が標的になった時、私には何ができるか。そんなことを考えなくても良いくらい平和な国であってほしいと願っています。当たり前に送れる毎日こそが「平和」だと思います。

昔の人の教えがあったからこそ、私たちは今、平和な暮らしができているのだと感じました。

釜石東中学校 佐々木 一真

防災研修では、実際に揺れを体験したり、火災時に起こる煙を体験したりすることができました。特に震度 7 の地震は、想像していたよりもはるかに大きく 3.11 で立っていられなかったというのは、本当だったんだなと思いました。小学校のころからの防災学習で東日本大震災のことに
ついて写真や映像を見たり、「言葉」で学んできたりしましたが、「体」で体験することで、どの
くらい怖く危険なのか更に知ることができました。

青森市平和祈念式典では会場全体の悲しい雰囲気を感じ、もう二度と戦争を起こしてはいけな
いことを改めて感じました。戦没者追悼・平和祈念式では、釜石市で艦砲射撃があったことを紙
芝居で語ってくれる場面があり、どれだけ残酷なことなのか、詳しく知ることができました。

交流事業を通し、防災や戦争のことだけでなく、友達と絆を深め、共に学び支え合うことの
大切さを知ることでもできました。これからも友達との友情を大切にし、お互い支え合い平和を意
識して生活していきたいです。

釜石東中学校 小笠原 実紅

今回の研修会では、防災や平和についてたくさん学びました。一番心に残ったのは、これか
らとても大きな地震が 3 回ほど起こるということです。実際に体感できる機械があり、とても怖か
ったです。そして、生き残るための対策で「自分の命は自分で守る」ということを教えていた
きました。他にも青森市の平和について学んできました。それまで、「戦争」によって生活が成
立っていた人たちが、「戦争」がなくなっても生活できるようにするために町づくりを行い、平和
が訪れたことで青森市ができ、平和の象徴ということを知りました。

今回の交流会を通じて、青森市と釜石市の違いを学び、青森市で取り組んでいることを釜石市
に取り入れる良い機会になったと思います。

釜石東中学校 佐々木 さやか

交流事業を振り返って、私は特に、青森市での交流が楽しかったです。青森市での三日間は、
戦争や災害について、様々なところの見学や、当時の話が聞けて良かったです。青森市には、戦
争の遺跡がたくさん残っていて、釜石市では、あまりそういう建物などを見ないので新鮮でした。

防災学習では、防災教育センターで、地震や煙、消火の体験をしました。この体験を通じて、
地震や火災は、大変なことだと改めて知ることができました。

最後に、青森県消防学校の学生が、本当に火が出ている状況での消火訓練を行っていたのを見
て、すごいと思いました。平和折念式典は、式に参列させていただき、貴重な体験ができました。

釜石市交流では、戦没者追悼・平和祈念式への参加と、平和学習、郷土資料館の見学を通じて、
この釜石市でも昔は、戦争があったことを詳しく知ることができました。紙芝居や表など分かり
やすかったです。

この事業を通じて、戦争や防災について、疑問とか興味ができたので、インターネットなどで
調べて、たくさんを知りたいです。

唐丹中学校 鈴木 一護

今回の交流事業では、青森市そして釜石市の交流を通じてそれぞれどのような文化があり、特色があるのかを発見することができました。

青森市に行った時、自分が特に印象に残ったことは、青森大空襲についての戦争遺構の見学です。釜石市も艦砲射撃で攻撃され、どちらも苦しい体験をしていて、そこが共通だと思いました。

初めて会った釜石のみんなや、先生たちとも仲を深められ、とても楽しく充実した交流事業にすることができ、とても役に立つ体験ができたので、今後も積極的に参加していきたいと思いました。最後にこの事業を計画してくださった皆様に感謝します。本当にありがとうございました。

大平中学校 植田 瀬那

青森市に行き、すごく衝撃的なことがたくさんありました。それは、青森市には、青森大空襲という釜石艦砲射撃のような空襲に遭い戦火にさらされたことです。その時、いくつもの尊い命が奪われたと聞きとても悲しく切ない気持ちになりました。

なぜ世界は、そのような悲しくなることをするのか？それに意味はあるのか？と考えもしました。幸せになれない、悲しいもの、怖いものであるから、戦争はいかなる理由があろうと起こしてはいけないと感じました。

誰にも死んでほしくないし、殺してほしくないと改めて思いました。この気持ちを青森市だけでなく日本全国の皆に持ってほしいと思いました。

大平中学校 今野 凜彩

今回の研修で、「いつか起こる地震」と思うのではなく、「地震は今起こる」と常に思うことや、想定にとらわれないことを学びました。その中でも私は自分の命は自分にしか守れないという考えが大切だと思いました。



東日本大震災からの復興のシンボル「釜石鵜住居復興スタジアム」にて

令和6年度青森市平和・防災学習事業 報告書

発 行 : 青森市総務部総務課

所 在 地 : 〒030-8555 青森市中央一丁目 22 番 5 号

電話番号 : 017-734-5042

E-mail : somu@city.aomori.aomori.jp